

## モノ

ヘッドアップディスプレイ  
モーターサイクルヘルメット



## IoT

Bluetooth、GPS  
スマートフォン連動

## コト

ナビゲーション表示をスマートヘルメットのディスプレイに表示し、  
安全性とデザインに“便利”を付加したモータサイクルライフを提供

## 会社概要

NSウエスト株式会社	
代表取締役社長	湊 則男
所在地	広島県庄原市新庄町 366-2
資本金	3億円 従業員 523名
事業内容	自動車表示機器（メーター及びヘッド・アップ・ディスプレイ）の開発・製造・販売
URL	<a href="http://www.nswest.co.jp/">http://www.nswest.co.jp/</a>

1982年設立。メーター、ヘッドアップディスプレイ（HUD）、インジケーター等の車の情報を知らせる自動車表示機器の開発・製造を主要事業とし、マツダ（株）、ダイハツ工業（株）などで高いシェアを有する。  
広島県庄原市と三次市に工場を、広島市に開発室を有し、製品の開発・製造の内製化、一貫生産体制を持つことを強みとする。

## ● 事業展開に至る経緯

NSウエスト（株）は、2014年、“非自動車部品”での新規事業に取り組むべく社内公募を行い、約100件の応募案件のなかから、自動車表示機器の内製化に強みを有する既存事業との相乗効果が見込める、スマートヘルメットの事業企画を採用した。製品開発にあたって、社内のオートバイ利用者と広島県内のオートバイショップから首都圏のオートバイ愛好者まで、ヒアリング調査により潜在的ニーズを探り、「ツーリングをより楽しむためのヘルメット」というコンセプトを立案した。並行して、国内のヘルメットメーカーに技術採用を打診し、高い関心を示して積極的な方針を示された世界的なヘルメットメーカー「（株）SHOEI」と提携。ナビゲーション機能については、オートバイ用のアプリケーションを既に製品化していた「（株）ナビタイムジャパン」と提携し、独自のアプリケーションを共同開発した。

## ● IoTを使ってモノからコトへ

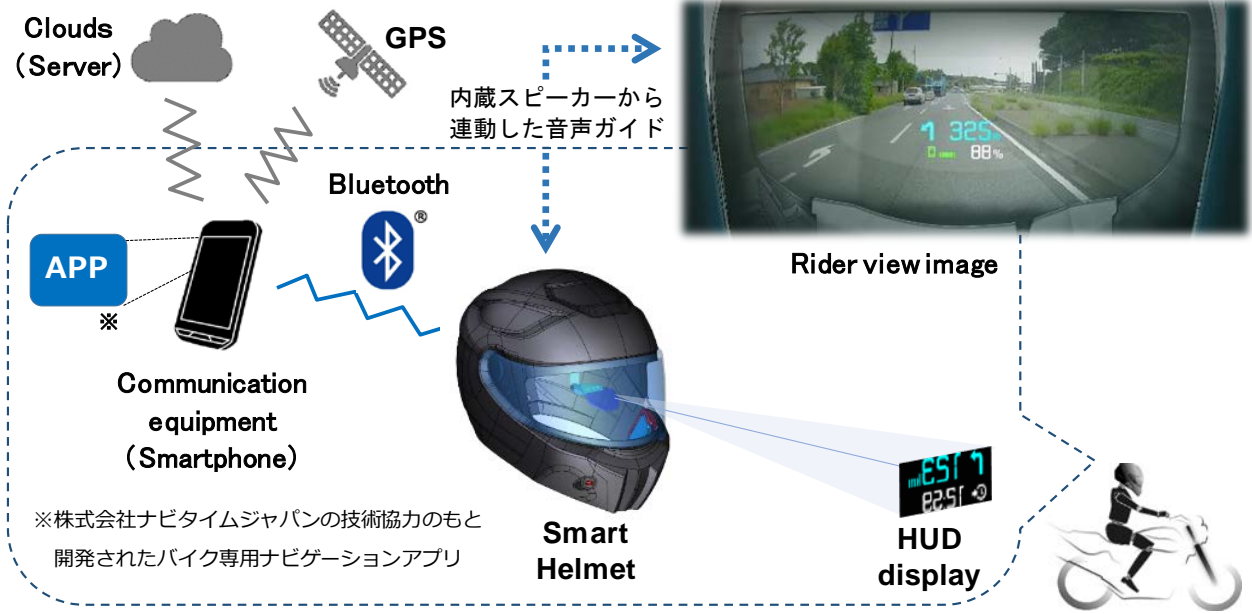
ヘルメットは、Bluetoothでライダーのスマートフォンと接続され、スマートフォンを介しインターネットにつながる。ヘルメットと一体化したディスプレイに、目的地までのナビゲーションが表示され、内蔵スピーカーから音声ガイドが聞こえてくる。ディスプレイの表示内容はライダーの視界を妨げないように必要な情報を絞る工夫が施されている。

ハンドルや車載メーター付近に設置する従来のオートバイ用ディスプレイに比べて、ライダーの視線移動が少ないことにより、安全走行を可能としている。

走り以外の負担を軽減すること、ツーリングをより便利にすること、バイクに乗っていない時でも楽しめること、という既存のヘルメットにはない機能を付加している。

## ビジネスイメージ

ターン指示、レーンガイド、目的地への距離・到着時刻が表示される



※株式会社ナビタイムジャパンの技術協力のもと  
開発されたバイク専用ナビゲーションアプリ

## ● ユーザーとの価値づくりのポイント

車載用HUDで培った開発力を有する同社とブランド力を有する(株)SHOEIとの共同開発により、ヘルメットそのものの完成度、機能性いずれも高く、展示会では、「こういうモノが欲しかった」と高評価を得られ、ユーザーの潜在的な価値を実現する製品ができた。

従来のヘルメットの機能である、“安全、快適、カッコよさ”を追求した上で「便利」という新しい価値・機能を付加し、ライダーに上質なモータサイクルライフを提供することを目指している。今後は、オートバイ車体とつながる“コネクテッド・モーターサイクル”への発展、そのネットワークの中心として、スマートヘルメットが様々なデバイスとつながり、新しい価値の共創づくりにつながることが期待される。

## 知財戦略

スマートヘルメットの開発にあたり、特許、意匠などで18件の知的財産権を登録。

近年の意匠審査基準の改定によって、GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）の画像に関する意匠登録が増加しつつある。スマートヘルメットで投影される画像に関して、特許だけでなく意匠も用いて保護するというのは有効な戦略である。

## ● サービス・ドミナント・ロジックの視点

- 「ツーリングをより楽しむためのヘルメット」をコンセプトに開発されたスマートヘルメットは、モノは使われることで価値が生まれるというサービス・ドミナント・ロジックの考え方を体現している。何故なら、ライダーのより楽しいツーリングを可能にするために、ヘルメットがライダー本人と繋がることを実現しているからである。
- 今後、スマートヘルメットが提供する様々な機能が、オートバイ本体、ライダー本人のその時々「状態」を踏まえたものとなれば、ライダーをより楽しいツーリングに導くことになるであろう。